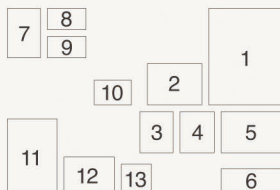




糠河川トンネル

水が流れる大きなトンネルの中を覗いた先に小さく光る出口が見える。かつての糠川は集落の真ん中を蛇行する川で、大雨の度に氾濫しずっと住民を悩ませてきた。そこで糠川を付け替え[集落上流～河川トンネル～日本海]へと水を流し、道路を広くした。住民の命と財産、安全交通を願う改修工事は15年がかりで無事完了した。

- 1-集落風景 2-お神輿 3-狛犬 4-鳥居 5-瓦屋根 6-民宿街長島の看板 7-糠河川トンネル 8-集落道路(1959) 9-集落道路(2023) 10-特務艦関東慰霊碑 11-酒造功勞碑 12-糠の杜氏たち 13-寄進者銘板



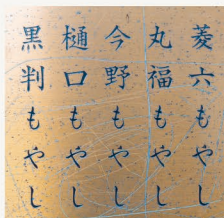
じゅうくしゃ 十九社神社

おどちのみこと
大戸道尊を御祭神とし、あわせて十九神(七仏薬師・十二神将)を祀る神社。過去の災害で崖崩れが起きて社殿が崩壊し現地に移建。門に神輿が納められており、毎年この神輿を担いで村中を周り村人の平安を祈る。境内からは、集落の屋根の重なりの方こうに海が見える。糠らしい景色だ。



松尾神社

冬、日本海側では漁に出られないため半農半漁になる。特に糠集落は田畑が少ないので、酒造りの出稼ぎをした。明治44年には『越前糠酒造杜氏組合』を結成。京都の伏見・兵庫の灘など各地の蔵元で活躍した。松尾神社には杜氏達の功勞碑や各地の蔵元・もやし屋(種麴の専門業者)の寄進者銘板がある。



海沿いの民宿街 長島

国道305号が整備された1970年代。関西から海水浴客が増え、越前海岸ブームが到来すると民宿がたくさんできた。河野でも毎年11月から新鮮な越前ガニが食べられる。民宿の前に並ぶ、カニを茹でる釜から蒸気が立ち昇る光景は、河野の冬の風物詩だ。
※越前ガニ漁は河野では行っていません。

